令和2年度 【第3学年】 シラバス



稚内大谷高等学校

科目	担当者	ページ
宗教	黒田教諭	p 4 · 5
国語表現	小西教諭	p 6· 7
現代文	小西教諭	p 8 · 9
古典B	田中教諭	рІО·ІІ
国語演習(A)	田中教諭	p 2 · 3
国語演習(B)	田中教諭 工藤教諭	p 4 · 5
日本史B	本間教諭	p16·17
地理B	遠藤教諭	p 8 · 9
現代社会	遠藤教諭	p 2 0 · 2 I
数学Ⅱ	吉田教諭	p 2 2 · 2 3
数学Ⅲ	木村教諭	p 2 4 · 2 5
数学演習(A)	木村教諭	p26·27
生物	菊池教諭	p 2 8 · 2 9
体育	男子)小林(任)教諭 女子)小林(奈)教諭	p30·31
音楽I	山本教諭	p 3 2 · 3 3
コミュニケーション 英語Ⅱ	齊藤教諭	p34·35
英語表現Ⅱ	中田教諭	p36·37
英語会話	齊藤教諭	p38·39
英語演習(A)	齊藤教諭 井上教諭	p40·41
英語演習(B)	齊藤教諭 内藤教諭	p42·43
フードデザイン	伊藤教諭	p44·45
財務会計I	中村教諭	p46·47
情報処理演習	吉田教諭 小林(瞬)教諭	p 48 · 49
土木施工基礎技術	木村教諭	p 5 0 · 5 l

履修学年	3 学年	コース・種類	全クラス 必履修
教 科 名	宗教	科目名	宗教
単位数	1 単位	科目担当者	黒田覚祐
定期考查	·	無し	

2. 学習目標・目的

仏教の教えに触れ、自分自身を見つめ、問いを持つということを大切にする。

3. 学習内容

親鸞聖人の生涯での出来事を通して、どんなことが課題となったのか、自分自身はどう なのかということを見つめていく。

4. 使用教科書

教科書:親鸞 生涯と教え

副教材:聖典

5. 評価方法

前期 感想文(花まつり) 80%、プラス点 10%、平常点10% 後期 感想文(報恩講)80%、プラス点 10%、平常点10% 平常点は欠席、授業態度、提出物等によって減点。プラス点は積極的な授業への参加等を 考慮する。

	6. 年間指導計画 指導計画					
		単元	学習内容			
	4月	はじめに 第1章 人間に生まれて 誕生 第1章 人間に生まれて 出家	親鸞聖人が生まれた時代がどのような時代であったのか、また、どんなことを求めていたのかを確認してゆく。			
	5月	第2章 真実を求めて 比叡山延暦寺 第2章 真実を求めて ひたむきな学び	比叡山ではどのようなことを求め、どのような生活をしていたのかを確認し、そして、それを求め続ける日々を送っていたこと確認する。			
前期	6月	第2章 真実を求めて 深まる苦悩 第3章 真実との出あい 和国の教主 第3章 真実との出あい 夢告	迷いや苦しみを通し、仏教を依りどころとして生きた先達に自らの在り方を見つめていくことの大切さを確認してゆく。			
	7月	第3章 真実との出あい 法然の教え 第3章 真実との出あい 法然との出あい	法然上人が大切にされた教えはどのようなものであり、 また上人との出あいによって、どのようなことに気づか されたのかを見てゆく。			
	8月	第3章 真実との出あい 吉水での生活	法然上人のもとで学んでいた時の事柄を確認し、詩など を紹介しながら大切にしていることは何かを見てゆく。			
	9月	第4章 愚禿の名のり 法難 第4章 愚禿の名のり 越後の生活	念仏の教えがなぜ弾圧されることになり、そして弾圧の 結果、流罪になりそこで何を感じたのかを見てゆく。			
	10月	第4章 愚禿の名のり 群萌として 第5章 関東での教化 関東への移住	思禿という名のりから、群萌として自らを自覚したこと について考えてゆく。 関東での生活の中で見えてきたことの確認をする。			
後期	11月	第5章 関東での教化 弁円との出あい 第5章 関東での教化 同朋の交わり	親鸞聖人と弁円の出あいを通して、正しいあり方を見失っている私たちを見つめてゆく。 関東での同朋と関わり・立位置について見てゆく。			
	12月	第6章 京に帰る 執筆の日々 第6章 京に帰る 善鸞事件 第6章 京に帰る 入滅	帰京し多くの著作を残したことの理由を見つめる。 善鸞事件から教えられることについて考えてゆく。 入滅の様子とその後大切にしてたき事を見てゆく。			
	1月	おわりに	一年間のまとめとして私たちが一体何を教えられ、どの ような自分に気づき、何を求めていくのか考えてゆく。			

備考

それぞれが自分に問を持ち、課題を共有するために話し合いの場を持つ。

履修学年	第3学年	コース・種類	総合コース 選択履修
教 科 名	国語	科目名	国語表現
単位数	2 単位	科目担当者	小西 優樹
定期考查		前期期末・学年	末

2. 学習目標・目的

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力 や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活 の充実を図る態度を育てる。

3. 学習内容

- ・話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめたり深めたりする。
- ・相手の立場や異なる考えを尊重して課題を解決するために、論拠の妥当性を判断しな がら話し合う。
- ・様々な言語活動を通して指導する。

4. 使用教科書

教科書:国語表現(教育出版)

副教材:国語表現演習ノート(教育出版)

LT現代文基本(浜島書店)

5. 評価方法

定期考査点(50点)+実技点(30点)+不定期の考査点(10点)+平常点(10点) 様々な表現に関する事項の理解度を考査によって測り、言語活動の取り組みと総合して 評価する。

	指導計画					
	単元 学習内容					
	4月	コミュニケーションのために	コミュニケーションの土台をつくりつつ、積極 的な参加を促していく。			
	5月	声の表現	スピーチのための事前の準備について理解し、 さらに本番の体験を通して、その方法を学ぶ。			
前期	6月	スピーチ	スピーチすること、スピーチを聞くことで感じたことや学んだことをまとめ発表する。			
	7月	人とつながる言葉	敬語が人間関係の調整や場の状況にどの様には たらいているか考え、自己表現として敬語の使 用方法を学ぶ。			
	8月	面接・社会との接点	自己を知り、場面を判断し、相手に配慮して、自 分の意見を述べるという面接の学習を通して社 会への参加能力を育てる。			
		前期末	考查			
	9月	面接・社会との接点	面接練習を相互で行い、他者評価することで自 分自身を見つめる機会とする。履歴書の書き方 を学び、志望動機を書く。			
	10月	プレゼンテーションの方法	話し言葉と書き言葉、言語と非言語の違いに気 づき、場や道具などがコミュニケーションの重 要な要素である認識を育てる。			
後期	11月	プレゼンテーション 1	パワーポイントを使いプレゼンする。効果的に 相手に伝えるための手法を学び、実践する。相互 評価する。			
-	12月	プレゼンテーション 2	パワーポイントを使いプレゼンする。効果的に 相手に伝えるための手法を学び、実践する。相互 評価する。			
	1月	プレゼンテーション 3	自分史を作成し発表する。また、今後の人生設計 も考え将来を具体的に描く。			
		学年末	考査			

備考

- LT現代文のテキストを授業で扱い、現代文の読解演習を行っていく。
- ワーク問題や言語活動による実践によって定着を図る。
- ICT 教室を有効的に活用する。

履修学年	第3学年	コース・種類	全クラス 必履修
教 科 名	国語	科目名	現代文
単 位 数	3 単位	科目担当者	小西 優樹
定期考查	前期中間	・前期期末・後期・	中間・学年末

2. 学習目標・目的

近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。その達成のために以下の3点の力の育成に重点を置く。

- ① 語彙力(漢字能力を始めとする日本語の知識の蓄積)
- ② 読解力(主張を読み取る、心情を推し量る)
- ③ 表現力 (読解した内容を自分の言葉で整理する、自分の考えを伝える)

3. 学習内容

- 1. 文章に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取り、人間、社会、自然などについて考察すること(語彙力、読解力)。
- 2. 文章特有の表現を味わったり、語句の用いられ方について理解を深めたりすること (語彙力、読解力)。
- 3. 文章を読んで、言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること (読解力)。
- 4. 近代以降の言語文化についての課題を設定し、様々な資料を読んで探求して、言語文化について理解を深めること(読解力、表現力)。

4. 使用教科書

教科書:精選現代文B [東京書籍]

副教材:精選現代文B 学習課題ノート [東京書籍]

常用漢字ダブルクリア [尚文出版]

5. 評価方法

a 普段の授業態度、b 提出物の状況、c 小テストの成績、d 定期考査の成績を材料に評価する。100 点中、a と b を平常点(10 点)、c を小テスト点(20 点)、d を定期考査点(70点)として計算する。但し、毎回の授業の記録及び成果であるノートや漢字テキストの提出物は重視し、作成を徹底する指導を行う。

指導計画						
		単元	学習内容			
前期	4月	評論 1 ミロのヴィーナス	第1段の読解 本文の構成をつかみ本文を読む。 作者の意見を的確に捉える。			
中間	5月	評論 1 ミロのヴィーナス	第2段・3段の読解 本文の構成をつかみ本文 を読む。 作者の意見を的確に捉え、自分自身の意見をま とめる。			
		前期中	間考査			
	6月	小説 1 山月記	第1段~3段の読解 難語句について理解する。 登場人物の性格、心情を読み取る。			
前期末	7月	小説 1 山月記	第4段~7段の読解 漢詩を読み心情を読み取る。 主題を捉え感想を話し合う。			
	8月	評論3 おじいさんのランプ	第1段の読解 本文の構成をつかみ本文を読む。 作者の考えと童話の内容を的確に捉える。			
		前期末	考査			
後	9月	評論3 おじいさんのランプ	第2段・3段の読解 本文の構成をつかみ本文 を読む。 作者の意図を捉え、自分自身の意見をまとめる。			
期 中 1 間	0月	詩歌 永訣の朝	詩の背景を理解し、表現に留意しながら音読する。情景や心情を捉える。作者の世界観や理想に ついて考える。			
	1月	小説 2 こころ	第1段~5段の読解 登場人物の性格の違いを 読み取る。私の心情を捉える。			
<u>,</u>	後期中間考査					
学 1 年	2月	小説 2 こころ	第6段~10段の読解 私の心情を的確に捉え、行動について考える。Kの心情と行動を考える。			
末	1月	小説 2 こころ	第11段〜15段の読解 自分の意見と感想をまとめ発表する。			
		学年末	考査			

備考

定期的に漢字小テストを実施する。

生徒の習熟度によって教材を追加する場合がある。

国語の基礎的な問題やグループワークも授業に取り入れる。

ICT 教室を効果的に活用する。

履修学年	3 学年	コース・種類	進学コース 必履修
教 科 名	国語	科目名	古典 B
単位数	1 単位	科目担当者	田中 大介
定期考查		前期末 学年末	Ę

2. 学習目標・目的

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

3. 学習内容

古典にある語句の意味や用法及び文の構造を理解し、内容を構成や展開に即して的確に とらえる。また、内容読解を通してものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 適宜言語活動を交えていく。

4. 使用教科書

教科書:新編古典(東京書籍)

副教材:新編古典学習課題ノート (東京書籍)

5. 評価方法

定期考查点(80点)+不定期考查点(10点)+平常点(10点)

各単元で読解してきた事項についての理解度を文章記述などの考査問題で測り、古語の 知識や用法、漢文の基礎知識の定着度や平常の授業態度を総合して評価する。

	指導計画					
		単元	学習内容			
	4月	古文編 1. 説話に親しむ	 内容読解 文語文法の理解 言語活動 			
	5月	古文編 2. 物語を読む	 内容読解 文語文法の理解 言語活動 			
前期	6月	漢文編 1. 故事と小話	 内容読解 句法の理解 言語活動 			
	7月	漢文編 2. 唐詩と文	 内容読解 句法・表現技巧の理解 言語活動 			
	8月	古文編 3. 随筆を読む	 内容読解 文語文法の理解 言語活動 			
		前期	末試験			
	9月	古文編 4. 和歌の世界	 内容読解 文語文法・表現技巧の理解 言語活動 			
	10月	漢文編 3. 史記を読む	 内容読解 句法の理解 言語活動 			
後期	11月	漢文編 4. 寓話を読む	 内容読解 句法の理解 言語活動 			
	12月	古文編 5. 日記を読む	 内容読解 文語文法の理解 言語活動 			
	1月	古文・漢文総復習	古文分野と漢文分野の学習内容の総点検			
1		学年	 末試験			

備考

古典の読み方を養うだけではなく、現在と過去とでの文化や価値観などの違いについて ICT 機器を活用して調べ、話し合いや報告などの言語活動を交えて理解を深めていく。

履修学年	3 学年	コース・種類	進学コース 選択履修
教 科 名	国語	科目名	国語演習(A)
単 位 数	2 単位	科目担当者	田中 大介
定期考查		前期末 学年末	Ę

2. 学習目標・目的

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、 国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

小論文について学び、論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にま とめること。

3. 学習内容

- ・小論文の書き方と実践
- ・文章を書くにあたっての題材の収集、自己分析

4. 使用教科書

小論文クイックドリル58 (学研)

LT現代文1 (浜島書店)

5. 評価方法

定期考査点(80点)+不定期の考査点(10点)+平常点(10点) 各単元で学んだ事項についての理解度を小論文作成や考査問題で測る。その他平常の授業態度を総合して評価する。

	6. 年間指導計画 指導計画					
		単元	学習内容			
	4月	小論文について	小論文とは何か知る。			
	5月	小論文の基礎知識	小論文を書くために必要な基礎知識を学ぶ。			
前期	6月	小論文の基礎知識	小論文を書くために必要な基礎知識を学ぶ。			
	7月	小論文の基礎知識	小論文を書くために必要な基礎知識を学ぶ。			
	8月	小論文の書き方	小論文の書き方を具体的に学び習得する。			
		前期末	考査			
	9月	小論文の書き方	小論文の書き方を具体的に学び習得する。			
	10月	小論文を書く	今までの基礎知識と演習を生かし小論文を書く。			
後期	11月	小論文を書く	今までの基礎知識と演習を生かし小論文を書く。			
	12月	小論文を書く・添削する	小論文を書き、自分で添削する。			
	1月	小論文まとめ	小論文を様々な題材で書く。			
1		学年末	考査			

備考

国語の基礎的な問題や小論文の題材の理解のためにグループワークも適宜授業に取り入れる。また、プリント教材として志望理由書の練習や履歴書の練習も行っていく。

履修学年	3 学年	コース・種類	総合コース 必履修
教 科 名	国語	科目名	国語演習(B)
単 位 数	2 単位	科目担当者	田中 大介 工藤 亮
定期考查		前期末 学年末	•

2. 学習目標・目的

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、 国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

小論文について学び、論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にま とめること。

3. 学習内容

- ・小論文の書き方と実践
- ・文章を書くにあたっての題材の収集、自己分析

4. 使用教科書

小論文クイックドリル58 (学研)

LT現代文基本(浜島書店)

5. 評価方法

定期考査点(80点)+不定期の考査点(10点)+平常点(10点) 各単元で学んだ事項についての理解度を小論文作成や考査問題で測る。その他平常の授業態度を総合して評価する。

	6. 年間指導計画 指導計画						
		単元	学習内容				
	4月	小論文について	小論文とは何か知る。				
	5月	小論文の基礎知識	小論文を書くために必要な基礎知識を学ぶ。				
前期	6月	小論文の基礎知識	小論文を書くために必要な基礎知識を学ぶ。				
	7月	小論文の基礎知識	小論文を書くために必要な基礎知識を学ぶ。				
	8月	小論文の書き方	小論文の書き方を具体的に学び習得する。				
		前期末	考査				
	9月	小論文の書き方	小論文の書き方を具体的に学び習得する。				
	10月	小論文を書く	今までの基礎知識と演習を生かし小論文を書く。				
後期	11月	小論文を書く	今までの基礎知識と演習を生かし小論文を書く。				
	12月	小論文を書く・添削する	小論文を書き、自分で添削する。				
	1月	小論文まとめ	小論文を様々な題材で書く。				
1		学年末	考査				

備考

国語の基礎的な問題や小論文の題材の理解のためにグループワークも適宜授業に取り入れる。また、プリント教材として志望理由書の練習や履歴書の練習も行っていく。

履修学年	3 学年	コース・種類	進学コース 選択履修
教 科 名	地理歴史	科目名	日本史 B
単 位 数	4 単位	科目担当者	本間 敬三
定期考查	前期中間	前期期末 後期	中間 学年末

2. 学習目標・目的

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に 考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって歴史的 思考力を培い、国際社会に主体的に生き、平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民 としての自覚と資質を養う。

3. 学習内容

- (1)原始・古代の日本と東アジア
- ・原始社会の特色及び古代国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。
- (2)中世の日本と東アジア
- ・中世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。
- (3)近世の日本と世界
- ・近世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。
- (4) 近代日本の形成と世界
- ・近代国家の形成と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。
- (5)両世界大戦期の日本と世界
- ・近代国家の展開と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。
- (6)現代の日本と世界
- ・現代の社会や国民生活の特色について、国際環境と関連付けて考察させ、世界の中での日本の立場について認識させる。

4. 使用教科書

教科書: 詳説日本史 B (山川出版社)

副教材:詳説日本史ノート(山川出版社)

5. 評価方法

定期考査 70 点・小テスト 20 点・平常点 10 点の計 100 点とする。 平常点は欠課、授業態度、授業への積極性(意欲)、提出物(ノート等)で算出する。 また忘れ物、授業規律には十分に留意する。

	指導計画					
		単元	学習内容			
	4月	原始・古代 第一章 日本文化のあけぼの	1. 日本列島と日本人2. 旧石器時代人の生活3. 縄文文化の成立4. 農耕社会の成立5. 小国の分立6. 邪馬台国連合			
前期中間	5月	第二章 律令国家の形成	1. ヤマト政権2. 飛鳥朝廷3. 大化改新4. 律令国家への道5. 平城京(遣唐使)			
間	6月	第三章 貴族政治と国風文化	1. 藤原氏の進出2. 平安遷都と蝦夷との戦い3. 藤原北家の発展4. 地方反乱と武士の成長5. 源氏6. 院政と荘園整理令			
		前期中間	引考査			
	7月	中世 第四章 中世社会の成立	 1. 院政と荘園整理令 2. 平氏 3. 鎌倉幕府と朝廷 4. 蒙古襲来 5. 得宗専制 			
前期末	8月	第五章 武家社会の成長	1. 戦国大名の登場2. 室町幕府3. 室町文化4. 戦国大名の登場			
*	9月	近世 第六章 幕藩体制の確立 第七章 幕藩体制の展開	1. 織豊政権 2. 桃山文化 3. 幕藩体制の確立 4. 幕藩社会の構造 5. 幕政の安定 6. 元禄文化			
		前期末	考査 			
	10月	第八章 幕藩体制の動揺	1. 幕政の改革2. 宝暦・天明期の文化3. 幕府の衰退と近代への道 4. 化政文化			
後 期 中	11月	近世・現代 第九章 近代国家の成立	1. 開国と幕末の動揺2. 明治維新と富国強兵3. 立憲国家の成立と日清戦争4. 日露戦争5. 近代産業の発展6. 近代文化発達			
間	12月	第十章 二つの世界大戦とアジア	1. 第一次世界大戦と日本 2. ワシントン体制 3. 市民生活の変容と大衆文化 4. 恐慌の時代 5. 軍部の台頭 6. 第二次世界大戦			
後期中間考査						
学		第十一章 占領下の日本	1. 占領と改革 2. 冷戦の開始と講和			
年士	1月	第十二章 高度成長の時代	1.55年体制 2.経済復興から高度成長へ			
末		第十三章 激動する世界と日本	1. 経済大国への道 2. 冷戦の終結と日本社会の動揺			
	学年末考査					

備考

アクティブラーニングを積極的に導入し、主体的な学びを深める。

履修学年	2 学年	コース・種類	進学コース 選択履修
教 科 名	地理歴史	科目名	地理 B
単 位 数	4 単位	科目担当者	遠藤 源
定期考查	前期中間・前	期末・後期中間・	学年末(4回)

2. 学習目標・目的

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、知識を身につけるとともに、課題を追求したり解決したりする活動を通じて、国内のとどまらずグローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成に必要な資質・能力を育成することを目指す。

3. 学習内容

第 I 部 さまざまな地図と地理的技能

第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察

第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察

4. 使用教科書

教科書:新詳地理 B

副教材:新詳地理 B ノート

5. 評価方法

・考査点70%+小テスト点20%+平常点10%で評価

・授業態度、ノート点検、忘れ物等で関心・意欲を評価する。

	6. 平间指导計画 指導計画					
		単元	学習内容			
前期	4月	第 I 部 さまざまな地図と地理的技能	・現代世界の地図・地図の種類とその利用・地理情報の地図化			
申間	5月	第 I 部 さまざまな地図と地理的技能	・地図利用・身近な地域の調査			
		前期中間	町考査			
前	6月	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察	・世界の地形 ・世界の気候			
期末	7月	月 第 II 部 現代世界の系統地理的考察 ・世界の気候				
	8月	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察	・日本の自然の特徴と人々の生活			
		前期末	考査			
後	9月	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察	・日本の自然の特徴と人々の生活・環境問題			
期中間	10月	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察	・環境問題 ・世界の農林水産業			
間	11月	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察	・食料問題・世界のエネルギー・鉱産資源			
	後期中間考査					
学年	12月	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察	・地域区分とは何か・東アジア			
末	1月	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察	・東南アジア			
		学年末	考査			

備 老

アクティブラーニングの積極的導入による主体的な授業を目標とする。

履修学年	3 学年	コース・種類	総合コース 必履修
教 科 名	公民	科目名	現代社会
単 位 数	3 単位	科目担当者	遠藤 源
定期考查	前期中間・前	期末・後期中間・	学年末(4回)

2. 学習目標・目的

世界的な課題である地球環境の汚染・破壊や資源・エネルギーの枯渇について理解し、 またそれらを引き起こす原因も把握する。日本国内外に視点をおき、貧困や社会格差、少 子高齢化が進む中での年金、医療、介護などの問題について把握する。

3. 学習内容

・第1編 現代社会における諸課題

・第2編 現代社会のあり方と私たちの生き方

4. 使用教科書

教科書:高等学校 現代社会 新訂版

副教材:高等学校 現代社会 新訂版 ワークノート

5. 評価方法

・考査点70%+小テスト点20%+平常点10%で評価

・授業態度、ノート点検、忘れ物等で関心・意欲を評価する。

	指導計画					
			単元	学習内容		
前期	4月	第1編	現代社会における諸課題	・地球環境問題 ・資源・エネルギー問題 ・生命と情報		
中間	5月	第2編	現代社会のあり方と私たちの生 き方	・青年期とはどういう時期なのだろうか・現代社会と青年期の生き方・はたらくこと、社会とかかわること		
			前期中間	司考査		
前	6月	第2編	現代社会のあり方と私たちの生 き方	・日本の生活文化・基本的人権の保障・世界の政治体制		
期末	7月	第2編 現代社会のあり方と私たちの生 き方 ・平等権と自由権		・日本国憲法の成立と三大原則・平等権と自由権		
	8月	第2編	現代社会のあり方と私たちの生 き方	・社会権 ・政治に参加する権利と新しい人権		
			前期末	考査		
後	9月	第2編	現代社会のあり方と私たちの生 き方	・国の法律・政策を決める国会 ・国の具体的な政治を行う内閣 ・人権と法を守る裁判所		
期中	10月	第2編き方	現代社会のあり方と私たちの生	・日本の平和主義・政党政治と選挙		
間	11月	第2編	現代社会のあり方と私たちの生 き方	・開かれた司法制度に向けて ・経済主体と経済循環 ・景気変動と物価		
	後期中間考査					
学年	12月	第2編	現代社会のあり方と私たちの生 き方	・戦後の日本経済の復興と民主化政策 ・企業の役割とはたらき		
末	1月	第2編	現代社会のあり方と私たちの生 き方	・租税のしくみと財政政策		
	学年末考査					

備考

アクティブラーニングの積極的導入による主体的な授業を目標とする。

履修学年	第3学年	コース・種類	総合コース 必履修
教 科 名	数学	科目名	数学II
単 位 数	2 単位	科目担当者	吉田 有矢
定期考查	前期中間	前期期末 後期・	中間 学年末

2. 学習目標・目的

指数関数・対数関数、微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。

3. 学習内容

(1) 指数関数・対数関数 指数関数及び対数関数について理解し、事象の考察に活用できるようにする

(2) 微分・積分の考え

微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする

4. 使用教科書

教科書:改訂版 高等学校 数学Ⅱ(数研出版)

副教材:改訂版 書き込み式シリーズ 標準編 数学Ⅱ(数研出版)

5. 評価方法

考査80%、小テスト10%、平常点10%

平常点は、忘れ物や欠席に応じて減点し、授業態度・ノート・ワークも考慮

	6. 年间指導計画						
	指導計画						
		単元	学習内容				
前期	4月	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数	・指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解する ・指数関数とそのグラフの特徴について理解する				
間	5月	第2節 対数関数	・対数の意味とその基本的な性質について理解する・対数関数とそのグラフの特徴について理解する				
		前期中	間考査				
前	6月	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	・微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数 倍、和及び差の導関数が求められるようにする				
期期末	7月	第2節 関数の値の変化	・導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、 グラフの概形が描けるようにする				
	8月	第2節 関数の値の変化	・左記単元のピンポイント復習				
		前期期	末考査				
後	9月	第3節 積分法	・不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定 数倍、和及び差の不定積分や定積分を求められるよう にする				
期中	10月	第3節 積分法	・不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定 数倍、和及び差の不定積分や定積分を求められるよう にする				
間	11月	数学Ⅱのまとめ	・数学Ⅱ範囲のピンポイント復習				
	後期中間考査						
学年末	12月	数学Ⅱのまとめ	・数学 II 範囲のピンポイント復習				
	1月	数学Ⅱのまとめ	・数学 II 範囲のピンポイント復習				
		学年末	庆考査				

備考

- ・各単元のポイント毎に振り返り学習を実施し、定着度を確認する
- ・図形やグラフ等の諸問題においては、ICT 教具を積極的に活用する

履修学年	第3学年	コース・種類	進学コース 選択履修
教 科 名	数学	科目名	数学Ⅲ
単 位 数	5 単位	科目担当者	木村 泰優
定期考查	前期中間	前期期末 後期	中間 学年末

2. 学習目標・目的

平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを 積極的に活用する態度を育てる。

3. 学習内容

(1) 平面上の曲線と複素数平面

平面上の曲線がいろいろな式で表されること及び複素数平面について理解し、それ らを事象の考察に活用できるようにする

(2) 極限

数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする

(3) 微分法

微分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用 できるようにする

(4) 積分法

積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用 できるようにする

4. 使用教科書

教科書:改訂版 高等学校 数学Ⅲ(数研出版)

副教材:改訂版 書き込み式シリーズ 標準 Study-Up ノート 数学III(数研出版)

5. 評価方法

考査 70%、小テスト 20%、平常点 10%

平常点は、忘れ物や欠席に応じて減点し、授業態度・ノート・ワークも考慮

	6. 年間指導計画 指導計画					
		単元	学習内容			
前期	4月	第1章 複素数平面	複素数平面の存在意義を確認し、それを様々な場面で有 用できるようにする			
中間	5月	第2章 式と曲線	2 次曲線の性質を理解し、媒介変数表示や極座標・極方 程式を適切に表せるようにする			
\ 			前期中間考査			
前	6月	第2章 式と曲線	前月の内容を更に深める			
期期末	7月	第3章 関数	関数の諸性質を理解する			
	8月	第4章 極限	数列や関数の極限の概念を理解する			
			前期期末考査			
後	9月	第4章 極限 第5章 微分法	導関数の基礎的な手法を理解する			
期中間	10月	第5章 微分法 第6章 微分法の応用	導関数に関連して、平均値の定理や速度と加速度等、多 方面への有用性を理解する			
	11月	第7章 積分法とその応用	不定積分と定積分に関して、置換積分法や部分積分法等 の手法を用いて解くすべを理解する			
			後期中間考査			
学年	12月	第7章 積分法とその応用	面積問題を理解する			
末	1月	数学Ⅲの総復習	ピンポイントで重要部分を確認する			
		ı				

備考

- ・各単元のポイント毎に振り返り学習を実施し、定着度を確認する
- ・図形やグラフ等の諸問題においては、ICT 教具を積極的に活用する

履修学年	第3学年	コース・種類	進学コース 選択履修
教 科 名	数学	科目名	数学演習(A)
単 位 数	2 単位	科目担当者	木村 泰優
定期考查	前期中間	前期期末 後期	中間 学年末

2. 学習目標・目的

数学 I・II・A・Bの総復習及び大学進学へ向けた実践力を養成する

3. 学習内容

数学 I 総復習(数と式、2次関数、三角比、データの分析)

数学 II 総復習(式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法)

数学 A 総復習(場合の数と確率、平面図形)

数学 B 総復習(平面のベクトル、空間のベクトル、数列)

4. 使用教科書

教科書:改訂版 高等学校 数学 I、II、A、B(数研出版)

大学入学共通テスト対策 数学 I・A+II・B 標準演習 PLAN100 (数研出版)

5. 評価方法

考査80%、小テスト10%、平常点10%

平常点は、忘れ物や欠席に応じて減点し、授業態度・ノートも考慮する

6. 平间指导計画 指導計画			
	単元	学習内容	
4 月	数学 I 数と式、2 次関数	左記単元のピンポイント対策	
5月	数学 I 三角比数学 A 確率	左記単元のピンポイント対策	
	育	前期中間考査	
6月	数学 A 図形の性質 数学 II 式と証明	左記単元のピンポイント対策	
7月	数学Ⅱ 複素数と方程式	左記単元のピンポイント対策	
8月	数学II 図形と方程式	左記単元のピンポイント対策	
	自	前期期末考査	
9月	数学 II 微分法と積分法	左記単元のピンポイント対策	
10月	数学 B 平面のベクトル 空間のベクトル	左記単元のピンポイント対策	
11月	数学 B 数列	左記単元のピンポイント対策	
	包	发期中間考査	
12月	高校数学に関する総復習	左記単元のピンポイント対策	
1月	高校数学に関する総復習	左記単元のピンポイント対策	
		学年末考査	
	5月 6月 7月 8月 10月 11月	4月 数学 I 数と式、2次関数 5月 数学 I 三角比数学 A 確率 6月 数学 A 図形の性質数学 II 表述 II 7月 数学 II 複素数と方程式 8月 数学 II 図形と方程式 9月 数学 II 微分法と積分法 10月 数学 B 平面のベクトル空間のベクトル空間のベクトル 11月 数学 B 数列 12月 高校数学に関する総復習 1月 高校数学に関する総復習	

備考

- ・各単元のポイント毎に振り返り学習を実施し、定着度を確認する
- ・その他、適宜 ICT 教具を積極的に活用する

履修学年 3年		コース・種類	進学コース 必履修
教 科 名	理科	科目名	生物
単 位 数	4 単位	科目担当者	菊池 葉香
定期考查	前期中間	前期末 後期中	"間 学年末

2. 学習目標・目的

生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成すること。

3. 学習内容

①生命現象と物質

生物を構成する細胞や、エネルギー、遺伝情報など生物に関して学習する。

②生殖と発生

多様的な遺伝的組み合わせの生じるしくみ、細胞間の相互作用、遺伝子について学習する。

③生物の環境応答

神経系における情報伝達のしくみ、植物の環境への影響について学習する。

④生態と環境

生態系のなかで多様な生物が共存している様子やそのしくみについて学習する。

⑤生物の進化と系統

現代の生物が過去どのような道筋をたどってきたのか、生物の分類について学習する。

4. 使用教科書

教科書: 改訂版 生物(生物310) 数研出版

副教材: 三訂版 リード Light ノート 生物 数研出版

5. 評価方法

考査 60%、技能点 20%、小テスト 10%、学習に取り組む姿勢(平常点)10%、計 100%で評価する。

	評価の観点	評価の規準
(1	授業への関心や態度	自然の事物・現象に興味・関心を持ち、意欲的に授業に参加する姿勢がみられるか
(2	科学的な見方や考え方	観察・実験から、その結果を考察して科学的に判断する能力を 身につけられたか
(3	観察・実験の技能	自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身につけ、自分の考 えをまとめることができるか。実験技能は身についたか。
4	知識・理解	自然の事物・現象について基本的なことを理解し、その知識が身 についているか

		指	導計画
		単元	学習内容
前期	4月	第1編 生命現象と物質 第1章 細胞と分子	・タンパク質分子の構造や細胞内部の微細構造をはじめ、細胞を構成するさまざまな分子のはたらきについて学習する。
中間	5月	第2章 代謝	・代謝の例である光合成や呼吸のしくみをエネルギー変 換の観点から理解する。また、アミノ酸や、窒素を含 む化合物を合成する過程についても学習する。
		前期	中間考査
	6月	第3章 遺伝情報の発現	・遺伝情報の発現とその調節のしくみ、遺伝情報の変化 による形質への影響とゲノムの多様性について学習 する。
前期末	7月	第2編 生殖と発生 第4章 生殖と発生	・多様な遺伝的組合せが生じる仕組み、生物初期発生の 過程とそこでみられる細胞間の相互作用、その過程で 発現する遺伝子、調節する物質について学習する。
	8月	第3編 生物の環境応答 第5章 動物の反応と行動	・神経系における情報伝達のしくみや、受け取った情報 をもとにどのような行動が現れるか学習する。
		前	期末考査
後	9月	第6章 植物の環境応答	・植物が環境からどのように刺激を受け取り、それに対 してどのような反応が現れるかを学習する。
期中	10月	第4編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系	・生態系の中で、多様な生物が共存している様子やその しくみについて学習する。また、近年重要視されてい る生物多様性とその保全について考える。
間	11月	第5編 生物の進化と系統 第8章 生命の起源と進化	・地球上に生命が誕生して以来、生物がどのような道筋 をたどって現在のような生物の世界が出来てきたの かを学習する。
		後期	日中間考査
学 年 -	12月	第9章 生物の系統	・多様な生物をどのように分類するのかについて学習する。また DNA の塩基配列など生物の系統についての新しい知見についても学習する。
末	1月	総合生物演習	・大学入学共通テストに向けて
		· 学	

備考

授業時までに課された課題に取り組んでくること。この課題をもとに授業を進めていきます。 知識を身につけるだけでなく、必要な観察力及び想像力を有し、社会に貢献するために必要な自然 科学の基礎的素養を身につけられるよう努めましょう。

履修学年	3学年	コース・種類	全クラス 必履修
教 科 名	保健体育	科目名	体育
単 位 数	3 単	拉 科目担当者	男子) 小林 任 女子) 小林 奈央子
定期考查		無し	

2. 学習目標・目的

心と体を一体としてとらえ、健康・安全についての理解と運動の合理的、計画的な実践 を通して生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

3. 学習内容

運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の 向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を 確保して生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

4. 使用教科書

副教材:イラストでみる最新スポーツルール2018(大修館書店)

5. 評価方法

技能 5 0 点 思考判断 1 5 点 知識理解 1 5 点 意欲態度 2 0 点 合計を 9 0 % 平常点 1 0 % 学年末は前期と後期の合計点の平均とする。

	指導計画				
		単元	学習内容		
	4月	オリエンテーション 1 時間 体づくり運動(集団行動) 5 時間	オリエンテーション 体づくり運動 ゲームなどを取り入れ、身体づくりを行って行く 集団行動 集合、整列、行進など		
	5月	器械体操 1 0 時間	跳び箱 開脚跳び、閉脚跳び、台上前転 マット運動 前転、後転 開脚前転 開脚後転 倒立 倒立前転 後転倒立 飛び込み前転		
前期	6月	球 技 20時間	男子 サッカー ソフトボール 女子バレーボール バスケットボール ソフトボール		
	7月	陸上競技 6 時間	長距離走		
	8月	陸上競技 6 時間	長距離走 マラソン大会練習 走り高跳び		
	9月	マラソン大会 5 時間 武 道 (男子 6 時間 女子 3 時間) ダンス (女子 3 時間)	マラソン大会 柔道 男子 受け身 組技 乱取り 女子 受け身 組技 ダンス 創作ダンス		
	10月	武 道 (男子 3 時間) 球 技 6 時間	男子 柔道 球技 バスケットボール バレーボール 女子 球技 バスケットボール、バレーボール		
後期	11月	球 技10時間体育理論2時間	球技 バレー, バスケット 体育理論 生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ		
	12月	球 技6時間体育理論3時間	球技 バレー、バスケット、バドミントン ミニバレー 体育理論 日本のスポーツ振興 スポーツと環境 スポーツにかかわる職業		
	1月	体育理論 1 時間	体育理論 スポーツ科学のすすめ		

備	
競技によりグループワークを実施していきます。	

履修学年	3 学年	コース・種類	全クラス 必履修
教 科 名	芸術	科目名	音楽 I
単 位 数	1 単位	科目担当者	山本 雅克
定期考查		前期末・学年末	

2. 学習目標・目的

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深くかかわる資質・能力を養う。

3. 学習内容

- 1. 音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性を理解する。
- 2. 創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。
- 3. 個性豊かに音楽表現を創意工夫したり、音楽を評価しながら深く味わって音楽を聴けるようにする
- 4. 主体的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。

4. 使用教科書

教科書: Tutti 音楽 I (教育出版)

副教材:Music Navigation (教育出版)

5. 評価方法

定期考査40%、実習点40%、小テスト10%、平常点10%

授業への取り組み、合唱の際に積極的に声を出しているかなどの関心、意欲、態度も平常 点において評価する。

	6. 年間指導計画 指導計画				
		単元	学習内容		
	4月	・日本歌曲独唱	・歌詞の意味を理解し、言葉と旋律の結びつきを理解しながら歌う。		
	5月	・音楽理論・花まつりの歌歌唱	・音楽基礎の理解を高める。 ・歌詞の意味を理解し、気持ちを込めて歌う。		
前期	6月	• 合唱練習	・歌詞と旋律の結びつきを感じ取り、旋律の抑揚などを どのように歌うかを話し合う。		
	7月	• 合唱練習	・合唱の響きを感じ取り、それぞれの声部の役割を理解 しながら歌う。		
	8月	・西洋音楽鑑賞	・西洋音楽への理解を高め、音楽と感情の関わり合いや 音楽による感情の変化を感じ取る。		
		前期末	考査		
	9月	• 音楽理論	・音楽理論への理解を高める。		
	10月	・日本の古典芸能鑑賞	・日本の古典芸能についての理解と興味を高める。		
後期	11月	・箏	・箏の演奏を通じて日本の伝統楽器への理解と興味を養 う。		
	12月	· 筝	・箏の演奏を通じて日本の伝統楽器の奏法への理解を高 め、協力しながら演奏をする能力を高める。		
	1月	・卒業式歌唱練習	・校歌・仏歌を通して儀式的行事に参画する意識・態度 を高める。		
		学年末	考査		

備	考	

履修学年	第3学年	コース・種類	全クラス 必履修
教 科 名	外国語	科目名	コミュニケーション 英語Ⅱ
単 位 数	2 単位	科目担当者	齊藤 祥浩
定期考查	前期中間	、前期末、後期中	間、学年末

2. 学習目標・目的

本文の内容を理解する能力を高めるとともに速読したり精読し、 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、話し合うなどして結論をまとめたり、まとまりのある文章を書いたりする能力を高める。

3. 学習内容

- 1. 本文や新出単語の発音、音読、内容理解
- 2. 文法理解とその応用
- 3. プレゼンテーション

4. 使用教科書

教科書: Compass English Communication II Revised

副教材: Compass English Communication II Revise 学習ノート

5. 評価方法

考査:80% 小テスト:10% 平常点:10%

定期考査は日々の学習活動の中で習得した知識をもとに作成する。

また、授業やプレゼンテーションやALへの積極性等を判断し、平常点をつける。

		指	導計画
		単元	学習内容
前期	4月	Lesson5 Table for Two	第 4 文型(SVOO if 節)
中間	5月	Lesson5 Table for Two	複合関係詞
		前期	中間考査
	6月	Lesson5 Table for Two	知覚動詞(過去分詞) 助動詞+have+過去分詞
前期末	7月	Lesson6 Architect in Action	無生物主語の構文 原形不定詞②(使役動詞)
	8月	Lesson6 Architect in Action	部分否定
		前其	期末考査
後 -	9月	Lesson7 Sleeping and Dreaming	比較表現 as if + 仮定法過去
期中	10月	Lesson7 Sleeping and Dreaming	It seems that \sim
間一	1 1月	Lesson7 Sleeping and Dreaming Lesson8 Life in Jar	形式目的語 It 関係福祉の継続用法
		後期	
学年	12月	Lesson8 Life in Jar	否定疑問文 過去完了進行形 関係代名詞 whose
末	1月	総復習	文法等のまとめ
		学纪	

備考

ALTに対するプレゼンテーションを行ったり文法を応用して作文を作るなど知識を応用する力を育成する。また、リーディング等に関してもALTと連携し授業を展開する。

履修学年	第3学年	コース・種類	進学コース 必履修
教 科 名	外国語	科目名	英語表現 II
単位数	2 単位	科目担当者	中田 美佐緒
定期考查	前期中間・前期末・後期中間・学年末		

2. 学習目標・目的

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、論理の展開 や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。

3. 学習内容

生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。

主題を決め、様々な種類の文章を書く。

4. 使用教科書

教科書: Revised Big Dipper English Expression II

5. 評価方法

考査 70%、小テスト 20%、平常点 10%

授業において、忘れものや一生懸命に作業に取り組んでいるかどうか、授業に対する姿勢 は前向きか、などの観点から平常点の評価をつける。

	. 平间拍		計画
		単元	学習内容
前期	4月	Lesson10 Lesson11	完了形の不定詞 不定詞の慣用表現 動名詞の形 動名詞を使った慣用表現
中間	5月	Lesson12 Lesson13	SV+分詞 SVO+分詞 分詞構文 言及を使った様々な表現 比較級を使った様々な表現
		前期中	可間考査
	6月	Lesson14 Lesson15	最上級を使った様々な表現 最上級の内容を表す原級 比較級の構文 関係代名詞 補足説明を導く関係代名詞
前期末	7月	Lesson16 Lesson17	関係代名詞の what 関係福祉【where, when, why, how】 複合関係代名詞 複合関係福祉
	8月	Lesson18 Lesson19	仮定法過去 仮定法過去完了 I wish / as if~ 仮定法を使った様々な表現
		前期	未考査
後	9月	Lesson20 Lesson21	時制の一致 間接話法 部分否定と全体否定 強調・倒置
期中	10月	Lesson22	無生物主語
間 -	1 1月	Part2 Lesson3	希望・欲求を述べる
		·	_ ⁻
学年	12月	Part2 Lesson4	計画・意図を述べる
末	1月	1年間の総まとめ	今までの復習
		学年.	末考査

備考

知識を身につけるだけでなく、それを活用して自分のことを表現できるようになったり、他者の意 見を理解できるようにする。

履修学年	英語会話	コース・種類	総合コース 必履修
教 科 名	外国語	科目名	英語会話
単 位 数	2 単位	科目担当者	齊藤 祥浩
定期考查	前期中間	・前期末・後期中	『間・学年末

2. 学習目標・目的

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度の育成と身近な話題 について会話する能力を育成する。

3. 学習内容

生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。

相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答する。

4. 使用教科書

教科書:SELECT English Conversation(三省堂)

5. 評価方法

定期考査 80%、小テスト 10%、平常点 10%

定期考査は日々の学習活動の中で習得した知識をもとに作成する。

また、授業やプレゼンテーションやALへの積極性等を判断し、平常点をつける。

		指導	計画
		単元	学習内容
		Lesson1 New friends	初めて会う人との会話
		自己紹介	未来表現、不定詞 名詞用法
前	4月	Lesson2 Free Time	休みの日の予定について
期		フリータイム	現在形、過去形
中		Lesson3 Are You Okay?	体調が悪い時の表現
間	- 0	体調	助動詞 should
	5月	Lesson4 Our School	自分の学校について
		私達の学校	There is/are~「~があります」
I		前期中	間考査
		Lesson5 Weather	天候について
	6月	天気・気候	助動詞 will
前		Lesson6 TV Programs	 好きな番組やスターについて
期	7月	 好きな番組	 動名詞
末		1 5 m H; 0 H N	
		Lesson7 Talking on a Cell Phone	携帯電話を使った待ち合わせの会話
	8月	待ち合わせ	現在完了形
		Lesson8 Telling the Way	道案内の仕方
後	9月	道案内	tell 「人に~を教える」
期		Lesson9 Kyoto	観光案内の仕方
中	10月	観光案内	How long∼?「どのくらいかかる?」
間		Lesson10 Shopping	好みのものを購入する
	11月	買い物	現在進行形
		後期中	
		Lesson12 Making a Plan	待ち合わせの約束
学	12月	Apt	付り合わせの利果 Let's~ 「~しましょう
年 -		小ノ/へ	Detain Toda Od 7]
末		Lesson13 Future Jobs	将来なりたい職業について
/N	1月	将来	Why∼?-Because「なぜ~ですか」
		197N	「…だからです」
		学年末	尽考查

備 考

ALTに対するプレゼンテーションを行ったり、本文を内容を変化させ、自分のことを表現するなど知識を応用する力を育成する。

履修学年	第3学年	コース・種類	進学コース 選択履修
教 科 名	外国語	科目名	英語演習(A)
単 位 数	3 単位	科目担当者	齊藤 祥浩 井上 弘顕
定期考查	前期中間	・前期末・後期中	間・学年末

2. 学習目標・目的

英語の長文読解の力・センター試験や一般試験に向けた英語の力を身につけていく

3. 学習内容

長文読解の能力の育成とパラグラフごとの単語力、文法力を育てる。 詩文で文章を作れるようにする

4. 使用教科書

こちらで容易します

5. 評価方法

考査:80% 小テスト:10% 平常点:10%

授業において、忘れものや一生懸命に作業に取り組んでいるかどうか、授業に対する姿勢 は前向きか、などの観点から平常点の評価をつける。

	. 年間指		\$P\$ (1)
		指導記	<u> </u>
		単元	学習内容
前期	4 月	単語・文法長文読解	長文を通してその中で使われている文章内の単 語、文法を理解する。
中間	5 月	単語・文法 長文読解	長文を通してその中で使われている文章内の単 語、文法を理解する。
l		前期中間	胃考査
	6月	長文読解	長文を読み、何を言いたいのかを理解する。
前期末	7月	長文読解	長文を読み、何を言いたいのかを理解する。
	8月	単語・文法 長文読解	長文を通してその中で使われている文章内の単 語、文法を理解する。
		前期末	考査
後	9月	過去問(長文)	実際の入試問題の長文を解き、読解力を高める。
期中	10月	過去問(長文)	実際の入試問題の長文を解き、読解力を高める。
間	11月	過去問(長文)	実際の入試問題の長文を解き、読解力を高める。
		後期中間	貫考査
学年	12月	模擬試験	実際の入試試験を行い、解く
末	1月	1 年間の総復習	これまでの復習を行う
		学年末	考査

備考

知識を身につけるだけでなく、それを活用して自分のことを表現できるようになったり、他者の意 見を理解できるようにする。

履修学年	3 学年	コース・種類	総合コース 選択履修
教 科 名	外国語	科目名	英語演習(B)
単 位 数	2 単位	科目担当者	齊藤 祥浩 内藤 ひろさ
定期考查	前期中間。	・前期期末・後期・	中間・学年末

2. 学習目標・目的

英検3級~2級の取得

3. 学習内容

英検の過去問を利用して英検の問題に慣れさせる。

実際に、模擬面接や、ライティングをさせ、試験に合わせて英検3級 ~ 2 級の取得に向けた授業を展開する。

4. 使用教科書

教科書:改定版 2020年度版 英検3級(準2級、2級)過去6回全問題集

5. 評価方法

考査 70%、小テスト 20%、平常点 10%

授業において、忘れものや一生懸命に作業に取り組んでいるかどうか、授業に対する姿勢 は前向きか、などの観点から平常点の評価をつける。

	6. 年间指導計画 指導計画				
		単元	学習内容		
前期	4 月	ライティング、過去問	ライティング、過去問、級別頻出単語 予測されるトピックのライティングを練習する		
中間	5月	ライティング、過去問	ライティング、過去問、級別頻出単語 予測されるトピックのライティングを練習する		
		前期中間	- 間考査		
	6月	リスニング、過去問	リスニング、過去問、級別頻出単語 模擬面接、		
前期末	7月	リスニング、過去問	リスニング、過去問、級別頻出単語 模擬面接		
	8月	リスニング、過去問	リスニング、過去問、級別頻出単語 模擬面接		
		前期末	考査		
後	9月	ライティング、過去問	ライティング、過去問、級別頻出単語 予測されるトピックのライティングを練習する		
期中	10月	ライティング、過去問	ライティング、過去問、級別頻出単語 予測されるトピックのライティングを練習する		
間	11月	ライティング、過去問	ライティング、過去問、級別頻出単語 予測されるトピックのライティングを練習する		
		後期中間	間考査		
学年	12月	模擬試験	各級における模擬試験		
末	1月	総まとめ	今までの総復習		
		学年末	考査		

備考

ICT 機器を利用し問題に挑戦する。リスニングにおいては個々に使うことができ、自分のペースで 反復することで音に慣れさせる。

履修学年	第3学年	コース・種類	総合コース 必履修
教 科 名	家庭	科目名	フードデザイン
単位数	2 単位	科目担当者	伊藤 優美子
定期考查		前期末	

2. 学習目標・目的

- ・多種多様な食品について、栄養価値、料理上の特徴を体験的に理解し、各自の食生活における献立作成や調理に生かす。
- ・年中行事に於ける食事を理解し日本の伝統食について知識と技術を習得し、後生へ伝 承する。
- ・養殖、産地直売、輸入食品、食料の生産と流通をめぐる現状と課題を把握し、将来の食 生活を考える力を養う。
- ・料理様式に対応した献立作成及び専門的な料理ができ、ふさわしいテーブルセッティングができる。

3. 学習内容

- 1. 栄養に関する知識を身につける。
- 2. 実習を通して、調理の技術を習得する。
- 3. 食に関する現状の問題点について、レポートにまとめることで考察を深める。
- 4. 食の問題について考え、論文形式でまとめられるようにする。

4. 使用教科書

教科書:フードデザイン 教育図書

副教材:フードデザイン 学習ノート 教育図書

5. 評価方法

定期考査(前期期末)80%、小テスト10% 平常点10%

(後期期末)考査なし 実習点80% 小テスト10% 平常点10% 授業において、忘れ物や欠席、提出物、授業に対する意欲等で平常点の評価をつける。

			指導調	計画
			単元	学習内容
	4月	第1章	健康と食生活 食事の意義と役割	・食事のもつ意味を知り、食文化の成り立ちやその変化 の過程と現代の食生活との関係を知る。また、各自の、 食生活を分析し、問題点を把握して多面的に考える力 を養う。
	5月	第2章	栄養素・食品の特徴 栄養素の働き 健康に必要な栄養素	・健康な食生活を送る為には食事が大切である。その食 事に含まれる栄養素の種類と働きについて理解する。
前期	6月	第2章	食品の特徴	・栄養素の働きを家庭基礎の学習を振り返り学習する。 また、調理に欠かせない食品の特徴についても実習に そなえ学習する。
	7月	第2章	食品加工の目的 食の安全性 食品の生産と流通	・加工の目的とその取り扱い、食の安全性と食品表示の 見方を学習し、食中毒による健康被害について考え る。食品添加物について安全性を考える。
	8月	第3章	調理と献立 食事計画 食文化を見つめる	・調理用語、用具についてライフステージと食事計画を 考え、食事バランスについて学習しながら献立作成の 基本を学習する。
			前期末	考査
	9月	第3章	テーブルコーディネイト	・和食、洋食のテーブルコーディネイトを考える 小物をつくってみる(箸置き、箸袋 他)
	10月	第4章	調理実習 和食	・和食の様々な献立作成、調理実習
後期	11月	第4章	調理実習 洋食	・洋食の様々な献立作成、調理実習
	12月	第5章	調理実習 製菓	・御菓子の献立作成(和菓子・洋菓子)調理実習
	1月	第5章	豊かな食生活をつくる	・4月からの食に関する栄養価値、調理上の特徴、献立 や調理方法などをまとめる。 ・食育基本法を理解する。

備	考
	備

◎調理実習・・・10月~11月実施

◎製菓実習・・・12月実施

履修学年	第3学年	コース・種類	総合コース 必履修
教 科 名	商業	科目名	財務会計 I
単位数	3 単位	科目担当者	中村 洋平
定期考查	前期中間	前期末 後期中	1間 学年末

2. 学習目標・目的

財務諸表の作成に関する知識と技術を習得し、財務会計の意義や制度について理解するとともに会計情報を提供し、活用する能力と態度を育てる。また、検定試験合格に向けて、主体的に学習する態度を養い、希望進路の実現に必要な基礎的な資質や能力を身につける。

3. 学習内容

1. 財務会計の基礎

株式会社制度の特徴に留意し、企業会計の意義と役割、法制度について学習する。

2. 貸借対照表

それぞれの勘定の分類をはじめ、その適切な処理方法について学習し、基本的な資料によって報告式の貸借対照表の作成について理解する。

3. 損益計算書

経常損益計算と特別損益計算や各種利益の意味を知り、基本的な資料によって報告 式の損益計算書の作成について理解する。

4. 財務諸表活用の基礎

財務諸表の見方を学習し、分析等を行うことで理解を深める。

4. 使用教科書

教科書:新訂版 財務会計 I 東京法令出版

副教材: 2020年度版 簿記能力検定試験 最新過去問題集2級 全国経理教育協会

5. 評価方法

【定期考査8割】・【不定期考査1割】・【学習に取り組む姿勢1割】

定期考査は日々の学習活動の中で習得した知識をもとに作成する。また各単元末では自己の理解度を把握するために不定期考査を実施し、授業への取り組み、家庭学習の取り組み等を自己評価し、定期考査の結果と不定期考査の結果、その他で総合的に判断する。

	指導	事計画
	単元	学習内容
4月	第 I 編 第 1 章 企業会計の意義と役割 第 2 章 会計法規と会計基準 第 3 章 株式会社会計	・企業会計の意義と役割を理解し、会社法規や会計基準 について理解する。 ・個人商店と株式会社の違いを理解する。 ・株式会社の仕組みや設立等の記帳方法について学習する。
5月	第4章 当期純損益の計上と剰余金の 配当・処分 第5章 社債 第6章 株式会社の税務	・当期純損益の計上について学習し、個人商店との記帳方法の違いについて気づく。 ・社債について学習し、その記帳方法について理解する。
	前期中	中間考査
6月	第II編 第1章 貸借対照表の概要 第2章 資産の意味・分類と評価 第3章 流動資産	・貸借対照表の意味とその機能について学習し、資産の分類について理解する。 ・流動資産について学習し、特に棚卸資産の評価については時間をかけて理解を深める。
7月	第4章 固定資産 第5章 負債の意味・分類	・有形固定資産と無形固定資産の分類・評価を学習し、 特にのれんについては時間をかけて理解を深める。 ・負債の意味や分類について学習する。
8月	第6章 純資産の意味・分類 第7章 貸借対照表の作成	・純資産の意味や分類について学習する。 ・貸借対照表の作成について学習し、演習問題を反復す ることで理解を深める。
	前期	末考査
9月	第Ⅲ編 第1章 損益計算の意味と区分 第2章 収益・費用の認識と測定	・損益計算書の意味と役割について学習し、営業損益、 営業外損益、特別損益の違いについて理解する。
10月	第3章 損益計算書の作成	・損益計算書の作成について学習し、演習問題を反復す ることで理解を深める。
11月	全経簿記検定2級合格を目指して ・過去問への取り組み ・模擬問題への取り組み	・過去問、模擬問題へ意欲的に取り組み2級合格を目指して学習する。
	後期中	中間考査
12月	第IV編 第1章 財務諸表の意義	・財務諸表の持つ意味やその役割について学習し、分析 できる力を身につける。
1月	第 2 章 財務諸表の見方	・財務諸表の持つ意味やその役割について学習し、分析 できる力を身につける。
	5月 6月 7月 8月 10月 11月	単元 4月 第1章 企業会計の意義と役割第2章 会計法規と会計基準第3章 株式会社会計 5月 第4章 当期純損益の計上と剰余金の配当・処分第5章 株式会社の税務 6月 第11編 第1章 貸借対照表の概要第2章 資産の意味・分類多2章 流動資産 7月 第4章 固定資産第3章 純資産の意味・分類第7章 貸借対照表の作成 8月 第6章 純資産の意味・分類第7章 貸借対照表の作成 9月 第1章 損益計算の意味と区分第2章 収益・費用の認識と測定 10月 第3章 損益計算書の作成 11月 全経簿記検定2級合格を目指して・過去問への取り組み・模擬問題への取り組み・模擬問題への取り組み・模擬問題への取り組み 12月 第IV編 第1章 財務諸表の意義

備考

知識だけを取り込む一方的な授業ではなく、周囲と協力しながら問題に取り組む形態や、その過程 での協議を大切にする等、生徒自らでより良い授業となるように工夫する。また、タブレット端末を 使用して視覚教材についても積極的に取り入れていきたい。

履修学年	3年生	コース・種類	特別進学コース・選択履修 総合コース・必履修
教 科 名	情報	科目名	情報処理演習
単 位 数	2 単位	科目担当者	小林 瞬 吉田 有矢
定期考查	前期中間	前期末 後期中	"間 学年末

2. 学習目標・目的

Microsoft Excel を通して、基本的な操作法を習得し、表計算の基礎及びパソコンの基礎技術を身につけ、多種多様な操作法を学び、将来の就業にも役立てられる様な技術の習得を目指す。

3. 学習内容

- 1. エクセルの正しい操作方法を身につけ、多種多様な処理が行えるようにする。
- 2. 速度および正確性の向上を図り、適切な処理を行える能力を身につける。
- 3. 日本情報処理検定協会において、1つでも上の級を目指し、全員1級以上の資格取得を目指す。

4. 使用教科書

教科書:日本情報処理検定協会 情報処理技能検定各級 模擬問題集

5. 評価方法

検定点30%、考査点60%(実技60%、筆記試験40%)、平常点10%

6. 年間指導計画 指導計画					
		単元	学習内容		
前期中間	4月	Excel の基本操作 4級・3級の基本関数	セルの挿入、削除、結合、移動、数値の表示形式の変更、 罫線の表示などの基本操作を身につける。 4級・3級の様々な関数を理解する。		
	5月	2級取得に向けた演習	2級の模擬問題を行い、2級取得に向けた演習を行う		
		前期	明中間考査		
前期末	6月	2級取得に向けた演習	30分の中で2級取得に向けた試験対策演習を行う。		
	7月	検定(第1回目)	2級の模擬試験を行い、検定取得を目指す。		
	8月	1級取得に向けた演習	1級の操作について学習する。		
		前	期末考査		
後	9月	1級取得に向けた演習	30分の中で1級取得に向けた試験対策演習を行う。		
期中間	10月	検定(第2回目)	1級の模擬試験を行い、1級合格を目指す。		
	11月	初段取得に向けた演習	初段の基本操作を確認し、30分の中で試験対策演習を 行う。		
		後期	月中間考査		
学年末	12月	検定(第3回目)	初段の模擬試験を行い、初段合格を目指す。		
	1月	1級の復習	1級の問題の復習を行い、学年末考査に向けた多作を行う。また、印刷範囲の設定など実用的な知識を身につけさせる。		
		· 学·	年末考査		

備考

各検定で出題される、関数のみを理解するのではなく、将来、社会に出たときに活用できる操作も 同時に身に付け学力の向上を目指す。

履修学年	第3学年	コース・種類	総合コース 選択履修
教 科 名	工業	科目名	土木施工基礎技術
単 位 数	2 単位	科目担当者	木村 泰優
定 期 考 査 前期期末 学年末			

2. 学習目標・目的

土木に関する一般的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる

3. 学習内容

2級土木施工管理技術検定試験(筆記)の突破に向けた能力と態度を育てる

4. 使用教科書

教科書: 2級土木施工管理2020年版技術検定試験問題解説集録版

(一般財団法人 地域開発研究所)

5. 評価方法

定期考査60% 小テスト&実技30% 平常点10%

	*****	6. 牛间指導計画					
指導計画							
	単元	学習内容					
4月	土木施工概要・土木一般	検定問題の解答・解説					
5 月	土木一般	検定問題の解答・解説					
	前期中間	引考査					
6月	専門土木	検定問題の解答・解説					
7月	法規	検定問題の解答・解説					
8月	共通工学	検定問題の解答・解説					
	前期期末	卡考查					
9月	施工管理法	検定問題の解答・解説					
10月	土木一般・専門・法規等	検定問題の解答・解説					
11月	測量・工事写真	まとめ					
後期中間考査							
12月	土木施工工法・土木用語	まとめ					
1月	施工管理法	まとめ					
学年末考査							
	5月 6月 7月 8月 10月 11月	単元 4月 土木施工概要・土木一般 5月 土木一般 6月 専門土木 7月 法規 8月 共通工学 前期期末 9月 施工管理法 10月 土木一般・専門・法規等 11月 測量・工事写真 12月 土木施工工法・土木用語 1月 施工管理法					

備	考	
・ICT 教材を適宜使用し、効果的な学習を行う		